

## Ⅱ 地域の特徴的な取組事例



～つくと食べるをつなぐ秋の恵みに感謝祭～  
「JA愛知東とコープあいちの協同組合まつり」

◎取組の概要

平成23年11月5日(土)JA愛知東とコープあいちの主催による「山と水と緑の協同組合まつり」がJA愛知東本店(新城市)で開催されました。

これは、JA愛知東(生産者)と、コープあいち(消費者)の協同組合同士のつながりを強め、地域への貢献を広げるために締結している「総合提携活動」の一環として毎年行われているもので、今回で13回目の開催となります。

当日は、「手作りこんにゃくの実演」、「柿の皮むき大会」、「会場を巡るクイズラリー」や生協取引先メーカーの“あいちを食べよう日本の食を大切に”と題した昼食(試食)交流会がありました。また、愛知の伝統野菜「八名丸さといも」の芋汁、JA愛知東が商品開発した八名丸コロッケの提供など、盛りだくさんの催しが行われました。

農政課からは、実行委員会に参画し、検討会に加わるとともに、農政課としてもブース出展し、「いいともあいち運動」のPRや食育推進ボランティアさんたちの協力を得て、食育の啓発活動を行いました。



八名丸芋汁の提供に  
並ぶ皆さん(H23.11.5)

◎取組の成果

当日は、約400名の方々が来場されました。

お米の生産農家の話を聞いたり、地元農畜産物を味わったり、クイズラリー等で食について学んだりして、つくる生産者の方たちと食べる消費者の皆さんが交流を深め、食の良さ、大切さを実感できる良い機会となったようです。



お米作りの思いを語る  
生産者の方(H23.11.5)



交流で賑わう会場(H23.11.5)

◎今後の展開方向

- ・参加者がさらに増えるように開催場所等の検討をします。
- ・組合員以外の方の参加へのPRを充実させます。
- ・八名丸さといもコロッケのなど地元特産品の消費拡大をします。  
(県特産物PRプロジェクトへの参加)
- ・県としては、奥三河を中心とした「いいともあいち運動」のさらなるPRに加え、豊川流域の水のつながりなどを広く紹介していきます。

## がんばる女性起業！ 八名丸里芋の親芋を使った加工品開発！

### ◎取組の概要

新城市の特産品である八名丸里芋は愛知の伝統野菜に登録されております。主に産直や市場で出荷されるのは子芋や孫芋で、親芋は、食用としては硬くて食味が悪いため破棄され、連作障害の元となっています。また八名丸里芋の親芋を加工した商品「八名丸里芋のコロッケ」が地域外の企業によって開発・販売されましたが、まだ里芋を加工した商品は少ないのが現状です。そこで八名丸里芋の親芋を再利用して地域に根ざしたお土産となる加工品の開発を目指し、商品開発支援を行いました。

### ◎取組の成果

JA愛知東の助け合い組織「つくしんぼうの会」は地元農産物の加工品開発に積極的であり、これまで焼き肉のタレやゴーヤの砂糖菓子、漬物、ジャム等販売実績があり、八名丸里芋の親芋の商品開発についても意欲的でした。売り込む客層は50歳以上の女性をターゲットにし、①カロリーの低い和菓子、②里芋の和のイメージに合うことを前提に商品の検討、試作検討を重ねる中で「八名丸里芋 おまんじゅう」を開発しました。商品の特徴として季節感を出すために旬の野菜等を皮に練り込み、あんにたっぷり親芋のペーストをつかうことで里芋の風味を出し、奥三河の味噌文化を活かして皮に味噌を加えています。3種類の皮に2種類のあんを入れたまんじゅう1セット3個入りが開発されました。



商品ポップ



パッケージ



### 味の紹介

- 桜色：桜の葉の皮に里芋あん
- 茶色：味噌の皮に里芋あん
- 白色：プレーン皮にあずきあん  
と  
里芋あんのミックス

### ◎今後の展開方向

- ・メディアを使って商品名「八名丸里芋 おまんじゅう」のPRをし、情報発信していきます。
- ・まんじゅうの皮に入れる季節限定材料の選定を検討していきます。
- ・販売先はまだ農協の産直所だけですので、道の駅等新たな販路を開拓していきます。
- ・管内の特産物を使った加工品開発をしていきます。

## 消費者との交流による果樹産地の活性化

### ◎取組の概要

新城市は柿や種なし巨峰の産地です。しかし、生産者の高齢化が進んでいます。そこでJA愛知東の柿部会では「オーナー制研究会」を設立し、消費者との交流と収穫作業の省力化を目的としたオーナー制度に取り組み、また、ぶどう部会では消費者が巨峰栽培を体験しながら農家のお手伝いをする「ワーキングホリデー」を実施しております。

農業改良普及課では、果樹産地の活動に対して栽培技術指導、オーナー募集方法の検討、次年度活動の検討等の支援を行いました。



柿オーナーの収穫初め式(H23.11.3)

### ◎取組の成果



収穫を楽しむ柿オーナー



説明を聞くブドウの  
ワーキングホリデー参加者

23年度柿オーナー制には4名の農家を取り組み、計48口のオーナーと契約を結びました。11月3日には収穫初め式を行い、多くのオーナーが秋晴れの下で柿の収穫を楽しみました。今年取り組んだ農家はオーナー制に手応えを感じており、次年度以降も実施する意向を示しています。また、新たに取組を希望する農家も現れております。

ブドウの「ワーキングホリデー」は1名の農家が作業工程の少ない種あり巨峰で取り組み、10名の消費者が参加しました。その結果、実施ほ場のほとんどの作業は参加者によって行われ、農家の負担が大幅に減少しました。24年度は新たに1名の農家に取り組む予定となっております。

### ◎今後の展開方向

- ・柿オーナー制では、オーナー契約口数をさらに増やします。そのため、効果的なPR方法等について検討します。
- ・巨峰の「ワーキングホリデー」は「ぶどうお助け隊」と名称をかえ、産地の主力である種なし巨峰で実施します。



## 道の駅「アグリステーションなぐら」で アグリ感謝祭

### ◎取組の概要

平成 23 年 11 月 23 日(水)に名倉高原生産組合(組合員 70 名)主催で「アグリ感謝祭」が開催され、地域農産物の販売や紹介をしました。

道の駅「アグリステーションなぐら」を運営している名倉高原生産組合が道の駅の集客力向上を目的として毎年勤労感謝の日に行っているものです。

当日は、特設テントを設置して「しし鍋、つきたて餅(きな粉、紫黒米、エゴマ)、焼きとうもろこし」を組合役員が役割分担して行い、売上金全額を設楽町社会福祉協議会に寄附いたしました。

農業改良普及課は、名倉地区の農産物の紹介コーナーを特設テントに設置して、米(みねはるか)の試食と五合升量り売り、段戸牛カレーの試食、ルネッサンストマトジュースの試飲と販売、ルネッサンストマトの販売を農家とともに実施しました。

### ◎取組の成果

名倉地区の農産物紹介コーナーでは、米の試食と販売に 230 名、段戸牛カレーの試食に 200 名、ルネッサンストマトジュースの試飲と販売に 80 名、と多くの来場者に紹介することができました。

来場者は午前中が多く、浜松市や豊橋市、名古屋市、中津川市など多方面から訪れ、生産者は試飲や試食時に商品の感想を聞くなど、有意義な活動となりました。



しし鍋に並ぶ消費者(H23.11.23)



焼きとうもろこし販売(H23.11.23)



「みねはるか」の試食と量り売り  
(H23.11.23)

### ◎今後の展開方向

- ・来場者がさらに増えるように、道の駅「アグリステーションなぐら」の知名度向上、イベント内容の工夫等検討します。
- ・名倉地区の農産物について、組合員の顔が見える紹介方法や商品開発等について検討します。

## 農業体験を中心とした都市農村交流 「小畑の農業を楽しむ会」(新城市小畑)の農作業体験等

### ◎取組の概要

集落組織「小畑の農業を楽しむ会」では、地域の過疎化、高齢化が進み、行政区の存続に危機感を抱く中で、地域の活性化を図るため、地域の食材や自然、伝統文化を楽しもうと地元の有志の皆さんで「小畑の農業を楽しむ会」を立ち上げました。

さらに、地元住民だけでなく、都市住民の方にも一緒に楽しんでもらいましょうと、年間を通して交流できるプログラムを組んで活動しています。

活動内容は、田植、草取り、生き物観察会、稲刈りなど水田での農作業体験。他に収穫祭(地元食材 中心のバーベキュー大会)、イチゴ狩り、ホタル鑑賞、彼岸花鑑賞などです。



みんな一斉に稲刈り(H21.10.11)



生き物観察勉強会(H21.8.9)

### ◎取組の成果

- ・平成 23 年度の参加者は、10 組の 57 名でした。  
地域別では、尾張 8 組、西三河 1 組、東三河 1 組でした。
- ・お米、柿などのお土産とは別に、臨時の直売でもたくさん購入してもらいました。
- ・活動を重ねることで、地域の連帯感が強まりました。
- ・交流により都市部の人を通して集落の良い点を再認識することができました。

### ◎今後の展開方向

- ・リピーターの確保とともに、新たな参加者を開拓するため、スーパーなどへのチラシ配布、メディアの活用、行政機関のHP掲載などにより、募集PRを充実させます。
- ・活動プログラムの幅を広げるため、学生との連携、地元の女性の参画などを検討します。
- ・地域資源を活かし、田舎らしさ、地域の良さを前面に出したPRをします。



地域の資源(城跡)を散策  
(H21.11.15)



みんなで作って食べる収穫祭  
(H21.11.15)



## 中山間地域における特徴ある米づくりの推進 牛ふん堆肥と「みねはるか」の特徴ある米づくり

### ◎取組の概要

みねはるか普及グループ「はるか」、名倉たい肥利用組合（設楽町名倉地区）では、近隣の養牛農家から産出される牛ふん堆肥と「みねはるか（いもち病耐病性品種）」を活用し、化学肥料と化学合成農薬を削減する環境に配慮した特色ある米づくりに取り組んでいます。

また、新しい地域ブランド米として位置づけられることを目指して、県内で開催される農業関連イベントで試食・販売会（五合升での量り売り）を開催し、積極的にPRを進めています。



堆肥の機械散布



みねはるかの田植

### ◎取組の成果

平成 23 年度は、牛ふん堆肥による土作りと肥効調節型肥料（10a 当たり窒素 6kg、リン酸 0kg、カリ 0kg）を組み合わせることによって、水田への化学肥料成分の持込み量を削減することができました。また、いもち病防除剤（農薬成分）を削減した栽培方法により、平成 22 年度と平成 23 年度の 2 か年平均で 553kg / 10a（坪刈り）の収量を得ました。千粒重や玄米蛋白等の玄米品質は良好でした。

名倉地区営農推進協議会主催ナナカマド交流会やアグリステーションなぐら主催収穫感謝祭において、PR活動をしました。また、名古屋市栄の中日ビルに設置されている愛知県アンテナショップ“ピピッと！あいち”にて「名倉高原米みねはるか」として販売も進めています。



アグリ感謝祭でPR(H23.11.23)



ピピッとあいちで1kg袋販売

### ◎今後の展開方向

引き続き化学肥料削減のための技術を検討するとともに、産米のPRを進め、販売経路の確保に努めます。



## 都市部との植樹交流会

### ◎取組の概要

名倉地区営農推進協議会（設楽町西納庫）では、都市部と地元住民の植樹交流会を平成 21 年度から行っており、平成 23 年 10 月 29 日に 3 回目となる交流会を開催し、建設課で施工している広域農道 奥三河地区沿いの路肩にナナカマドの苗木 150 本を植樹しました。

名倉地区営農推進協議会は名倉地区の農業を通して地域振興を図る協議会で、会員は名倉地区の町議会議員、区長、農業委員、受託部会、トマト部会、農村生活アドバイザー代表、名倉高原生産組合（道の駅アグリステーションなぐら）や各組織の代表により運営されています。



協議会から植樹の説明(H23.10.29)



植樹の体験(H23.10.29)

### ◎取組の成果

- ・参加者募集を新聞などに掲載し、名古屋市や岡崎市などの家族連れ 85 人が参加しました。
- ・植樹後は広域農道をウォーキングしました。また、交流施設「ばんじゃーる駒ヶ原」で、きのこ汁、地元特産トマト、かまどで炊いた新米の昼食を味わいました。
- ・都市部との交流活動を通じて、設楽町農産物のPRと広域農道の紹介ができました。



広域農道をウォーキング(H23.10.29)



味覚交流会(H23.10.29)

### ◎今後の展開方向

- ・主な交流活動は植樹ですが、寄せ書きやウォーキングなど地域で工夫したイベントも行っており、今後も都市部の参加意欲が高まる企画を地域で考え、交流活動を継続します。

---

## 未来の大人たちへ 森林を学び育てよう ～津具森林組合 里山再生事業～

---

### ◎取組の概要

平成 23 年 5 月、津具森林組合主催により、森林の植栽体験が実施されました。

場所は、北設楽郡設楽町津具地内で、木の伐採後に再び植樹されることなく放置されていたところでした。津具森林組合では、土地所有者の了解を得て、中京大学スポーツ科学部と名古屋ボーイスカウト 87 団体の協力のもと、岡崎市にある愛知教育大学附属中学校の生徒とともにこの山林を植樹することとしました。生徒たちには森林組合長から森林の役割や大切さについての講話を聞いてもらった後、クヌギ、コナラなどを植樹し、幼樹がノウサギなどの食害にあわないよう、食害防護ネットを設置してもらいました。



急傾斜に負けず苗木を運ぶ生徒たち  
(H23.5.19)



植樹作業中の生徒たち  
(H23.5.19)

### ◎取組の成果

植樹体験後のアンケートによると、生徒たちは森林の大切さや、山林で作業をする大変さ、奥三河の自然環境の美しさについて知識や理解を深めることができたようでした。

津具森林組合では、今回の取組を通じて都市部の子供達に奥三河の森林地域の素晴らしさを理解してもらうことができる良い機会となりました。

今回の取組では、県の助成事業を活用して負担を軽減するとともに、地元商工会の作業協力で事前にシカ等の食害を軽減するための防除網を植栽場所の周囲に張り巡らし、また新城市の民間企業の協力により苗木を調達するなど、地域と緊密に連携をとって事業を実施することができました。特に林業振興課職員による資材調達の調整や、現場での防除網の設置、植栽指導の協力などにより円滑に作業をすることができ、生徒たちが怪我をすることなく植樹を体験してもらうことができました。

### ◎今後の展開方向

- ・今回の作業を体験した生徒に、数年後に再び現地を訪れてもらい、樹木の生長を見てもらうなど、持続的な交流を行います。
- ・継続して同様の事業を実施していきます。



## 施業集約化促進に向けた啓発活動 元気だぞ林業！！「山林整備の手始め講演会」

### ◎取組の概要

愛知県、森林整備加速化・林業再生事業愛知県協議会主催、新城地域林材業振興協議会後援により、新城市内に山林を所有する方、林業事業体他を対象とした山林整備の講演会を平成 24 年 3 月 15 日新城市文化会館で開催しました。

森林整備を効率的に実施する「集約化施業」を行うには、境界の明確化が不可欠であるとともに、低コスト木材生産を推進しなければなりません。

この講演会では、新たな取組である「汎地球測位システム（GPS）」を活用した境界明確化の手法と、木材の低コストな生産性・採算性を考慮した作業システムについて、森林所有者及び林業事業体に対して啓発を行いました。

第 1 部：「林業機械と現場のデザイン・施業手法や生産性・採算性について」

講 師：吉良 達 氏（フォレストテック株式会社 代表取締役）

第 2 部：「GPSで森の見える化！！」

講 師：高橋 啓 氏（社団法人奥三河ビジョンフォーラム 嘱託研究員）



講演会の状況(H24.3.15)



会場の様子(H24.3.15)

### ◎取組の成果

講演会には一般（個人・財産区等団体）90 名、林業事業体（森林組合含む）19 名、建設業界 4 名、行政及び主催関係 27 名、報道機関 1 名、の 141 名が参加しました。

講演会の開催により、①低コスト木材生産に向けた現場のデザイン、②GPSを活用した最新の境界明確化のイメージ、③新城森林組合の「所有山林ナビ事業（独自財源事業）」の紹介、について林務業界以外の一般参加者に広く普及できました。

### ◎今後の展開方向

参加者の多くは、所有山林の境界の明確化（アンケート結果）を求めており、その取組と施業を一体にした施業プランを森林所有者へ提案をすることが有効であると考えられます。

引き続き、明確化と低コスト生産の集約化促進に向けた普及啓発活動を行っていきます。



